

ホップ・ステップ



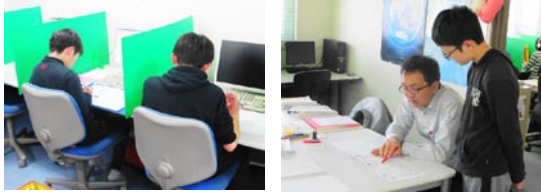
第151号
2019年5月1日発行



4/2 19年度第1回の、中1、2年生、4/3中3生の道コン 道コンの見直しも大事です 6/14の漢字検定受験に向けて、合格目指して漢検対策



道コンの結果をふまえて今年度最初の面談をしました。



春期講座が終わって通常の授業に。宿題もしっかりやってね！

今年度は7名が高校生になっても通塾することになり、高校生は12名に！

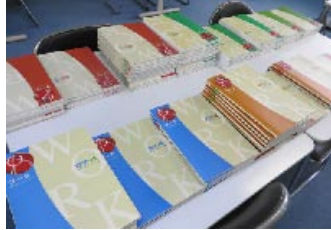


平成最後の日、北海道の夢 MONO 3号の打ち上げを見に、意を決して大樹町へ。ながらトラブルで打ち



新元号、「令和」のスタートにあたって
特別なゴールデンウィークが終わりました。西暦では2019年4月30日から翌日5月1日になっただけですが、世界で唯一、「元号を使っている日本では、天皇が変わり平成から令和へと新しい時代がスタートしました。平成31年初めから4ヶ月が経ち、また新たな年、時代が始まりました。平成の時代は経済が低迷し、数多くの大きな災害に見舞われ、そして世界中で環境破壊が進み、政情も非常に不安定なものになってしまいました。少なくとも日本では新しい元号が変わったのを機に、平成の時代にできなかったことに新たな決意で取り組むことの出来るチャンスです。

そして私たちも年の初めに立てた目標や計画を見直し、新たなスタートを切る事が出来るのではないのでしょうか。AIをはじめとする先端技術はさらに進化し、私たちが取り巻く環境は激変するでしょう。それは格差社会がさらに進むことにもつながるでしょう。文科省の言う個性を生かす教育とは裏腹に、小学校からの英語やプログラミング教育は日本の子供たち全員に必要なものとは思えません。音楽や絵画など芸術に興味のある人、宇宙やモノ造りに興味のある人等々、世界に目を向けない日本の子供たちには、多様な教育環境が必要だと思えます。さらに、以前から問題となっている読解力やコ



新年度のテキスト、小学生は国語と算 21期生の森君、高専から北電へ。 29歳の14期生、根内さんと工藤さん、6期生の岩渕君、3児のパパで子育て数、中学生は5教科全部を渡しました。しかし分社化で配送電の会社へ... 2年ぶりに我が家で夕食を一緒に。 大変そう。皆も、いずれはこうなる？



ミュニケーション能力不足をどう解決するのかはとも重要な課題です。今の社会や企業では学力が高いだけでは必要とされません。必要とされるのは総合的な人間力なのです。AIやロボット、コンピュータにはない「心」や「発想力」「コミュニケーション力」を身に付けることが必要です。いつも言っているように「社会で必要とされる人」「社会の役に立っている人」（社会は世界も含む）になれるように目標に向かって強い意思をもって頑張りましょう。「...になりたい、なればいいな」ではなることはできません。絶対に「なる」という強い覚悟が必要なのです。令和の初めに新たな覚悟を！

余塵 上野千鶴子さんの祝辞

今年の東大入学式で、同大名誉教授で女性学の第一人者の上野千鶴子さんの祝辞が話題になった。20年ほど前、上野さんが帯広で講演することになったので、知人に誘われて出掛けたことがある。

1995年の北京世界女性会議に釧路地域からも出席者があり、女性の地位向上に向けて盛り上がった頃だった。今は21世紀。上野さんの祝辞は昨年の東京医科大学など医大・医学部入試での女子学生などへの差別問題から始まった。

医学部以外では女子が優位な場合が多いという文科省の調査担当者のコメントも紹介し、東大入学者の女性比率が長年2割を超えない矛盾を「頑張りつつも報われない社会が待っている」と指摘した。

これは女子学生だけの問題ではない。上野さんは「頑張ったら報われる」と思えるのは環境のおかげ、それに感謝し、頑張っても報われない人、頑張りすぎて心身を壊した人：弱者への視点を忘れず、自分の弱さを認めて支え合つてと呼び掛けた。

女性学を生んだフェミニズムは女が男に取って代わるのではなく、弱者が弱者のまま尊重されることを求めるものだ」と説く。

どんな環境でも生きていける知を身に付けてとの激励は、東大生だけに当てはまるものではないだろう。



(坂上めぐみ) 釧路新聞 4・17

チェック表

またチェック表がスタートします。チェックが20個になったら退塾になります。あいさつ、時間、宿題、忘れ物など、やらなければならないこと、守らなければならないこと、家庭での生活態度など何でもチェックの対象になります。常にいろんなことを意識し行動することが大切です。過保護や過干渉になっている自分に気づき、自らの意思で積極的に行動し、意欲的に学習に取り組むことを心がけましょう。付いてしまったチェックは消すことも可能ですが基準はありませぬ。努力は認めますのでしっかりと取り組んで下さい。



31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水

携帯電話の
発信禁止
連絡は塾の電話を使用して下さい。

ストップ 過保護・過干渉！

5月の予定

英語力水準到達、中3は42.6%、高3が40.2% 上昇傾向も目標の50%に達せず

文部科学省は16日、全国の公立中学・高校の生徒の英語力を調べた2018年度の「英語教育実施状況調査」(昨年12月実施)の結果を公表した。政府が示す英語力の水準に達した生徒は中学3年が42.6%(前年度比1.9ポイント増)、高校3年が40.2%(同0.9ポイント増)と上昇傾向が続くが、いずれも目標とする50%には達しなかった。

調査は中学校9374校、高校3354校の全公立校を対象に実施。中学は語学力の国際指標「CEFR(セファール)」のA1レベル(中学卒業レベルとされる英検3級に相当)以上、高校はCEFRのA2レベル(高校中級程度とされる英検準2級相当)以上の資格を取得しているか、または教員が「相当の能力がある」と判断した生徒の割合を調べた。

都道府県別で水準に達した割合が最も高かったのは中学、高校とも福井県で、それぞれ61.2%と56.0%。自治体間の差が大きく、中学では最も低い北海道の30.0%と30ポイント以上の差があった。福井県は16年度から中3、高1、2に対して年1回、民間資格検定試験の受験料を全額補助。県立高入試でも、英検の級に応じて加点するなど受験を推進している。

政令市(中学)では、さいたま市が75.5%と突出して高かった。同市は16年度から小1～中3の9年間で一貫した英語教育に取り組んでおり、中学では学習指導要領で定められた年間140時間(1コマ50分)の授業を、独自に157時間に拡大している。

調査では英語担当教員の英語力も調べた。CEFRのB2レベル(大学中級程度とされる英検準1級に相当)以上が中学は36.2%(同2.6ポイント増)、高校は68.2%(同2.8ポイント増)で、いずれも政府目標の中学50%、高校75%を達成できなかった。

政府は13年、卒業段階の中高生が身につけるべき英語力の基準を設け、それぞれ17年度までの50%を目標にした。17年度までに達成できなかったため、期限を22年度に先延ばしにした。

文科省の担当者は「一年でも早く目標を達成できるように、成果の出ている自治体の取り組みを普及させるなどの対策を進めたい」としている。

【伊澤拓也】毎日新聞4月16日

都道府県、政令市(中学)別の中3、高3の英語力では

北海道は中3が30.0% 高3が39.4%、また札幌の中3は33.9%だった。いずれも全国平均を大きく下回っている。



変わる大学の英語教育、「話す」偏重の改革は危険

・・・東大教授齋藤兆史氏

大学の英語化が進んでいる。国際競争力を高めてグローバル人材の育成を急ぐため、「スーパーグローバル大学」選定校を中心に、英語のみの講義や単位取得などの取り組みが広がる。2020年以降、大学入試への外部検定試験の導入や中学でも「英語による英語教育」が始まる。はたして英語力の飛躍的な伸びにつながるのか。落とし穴はないか。長年、英語教育に携わってきた東京大学の齋藤兆史教授に聞いた。

——国際化の現状をどうみますか。

「例えば、私が受け持っているPEAK(英語で学位が取れる学部コース)のクラスでは、留学生などに日本文化について英語で教えています。かなり人気があって、学生数も多い。数の上では、成果が上がっている。しかし、それが日本人学生の英語力の向上につながっているかという、それほど影響はないでしょうね。コース自体が分かれていますから」

「国際競争力という面でも、いままでの東大の研究、学問のレベルに合った外国人が来ているかという問題がある。日本の大学には、日本語でやってきた学問の強みがあります。それを英語に変えたからといって、同じ水準の教育や研究ができるとは思えません」

——英語化の“落とし穴”ですね。

「単純に、英語による授業が何クラスとか数えるけれど、どのレベルの英語かは、あまり問題にしていない。中には、英語が非常にできる先生もいるけれど、苦手な教員もいる」

「全員ネイティブみたいな英語で授業ができるわけじゃないから、どうしても日本語よりも授業の質が落ちる。学生もこれまでと同様に理解しているかという、そんなことはない」

——小中高での教育改革は、大学にどう影響しますか。

「中学や高校で、まず英語を話せるようにするという計画ですね。とてもそんなことができるとは思えない。英語で英語を学んで、聞こえはいいけど、先生方がみな見事な英語を話し、生徒が全部、理解して、英語力が急に伸びるなんてことはあり得ないです」

「学生は相変わらずしゃべれないし、読み書きの力もがたがたになっている。非常に困っています。東大はまだ、しっかりしてますよ。だけど、他大学の先生に聞くと、品詞なんかも分からないという状況らしい。そうなると、もう目の前が真っ暗になります」

「大学での学問の基礎は、きちんと読めて考えられるということです。ところが、中高で、思考力や学力の基礎となる文法や読み書きの力をつけてくれている」

「これまでは、われわれ大学の英語教師も、中高では器用に話せなくてもいいので、とにかく基礎力をつけてほしい。あとは大学で伸ばす。そういう立場だったんです。それが崩れてしまった」

——改革の背景に、コミュニケーション能力を重視する流れがある。

「日本では、文法・読解か、コミュニケーションかという二項対立になってしまうけれど、実は語学力はひとつのものなんです。日本人は話せないということをしごく苦にしますよね。読み書き、文法の力の上に訓練をすれば、話せるようになるんだけど、最初から話せるようにできるはずだと考えてしまう」

「幕末・明治以来、こんなにやってもなぜ英語が話せるようにならないのかと、ずっと言ってきたわけです。それでも、以前から変わらないところを変えれば、なんとかなると思いつけてきた」

「最初にやり玉に挙がったのは文法・訳読で、これをコミュニケーションに変えた。次に、中学では遅いからと小学校にする。小学校での英語なんて明治時代からやってますよ。さらに大学も日本語で教えるからだめだと考え、英語に変えようと動いている」

「でも、日本人の英語力は全く伸びていません。今度の改革も恐らく期待した効果は出ないでしょう。昔から試行錯誤の繰り返しで、それでもダメなんです」

「日本人が英語が苦手な言語上の理由を十分に理解していない。苦手だからこそ、しかるべき手順で、努力すべきだという点を見失っているのです。その結果、ここさえ直せばという素人考えが幅をきかせてしまう。そうした傾向が年々、強まっているんです」

——実力をつけたい学生はどうすればよいか。

「基礎ができている学生は、大学に入ってから伸びが違います。文法と読解をしっかり学び、できるだけ音声に触れ、機会があれば正しい英語を話すことです」

「私は会話は非常に重要だと考えています。ただ、正しい英語を話すことが大事なのです。今は間違ってもいいから話すのがいいとか言いますが、基礎もできないうちに、いいかげんな英語を話すなんて、ダメです」

「例えば、柔道で受け身も知らずに、いいかげんに技をかけたら危ない。いまの英語教育は、受け身ばかりやっても技ができないという理屈で、基礎をやらなくなっている。基礎より、まず楽しさを教えなきゃいけないという。それじゃあ、ケガをしますね」

大学生の英語力が低下 苦手の原因直視を

大学生の英語力が落ちている。「英語教育の危機」(鳥飼玖美子著)によると、入学者の多くがまともに読めない。書けない。中学レベルの文法基礎の補習を余儀なくされているようだ。

文部科学省は、こうした現状とは、かけ離れた高い目標掲げる。大学の国際競争力を強め、教育の英語化を進めて、グローバル人材を育てる。東京五輪を見すえ、小中高での教育も拡充し、アジアでトップの英語力をめざすという。

これまでも、高校に(聞く、話すを中心の)「オーラル・コミュニケーション」科目を導入。「『英語が使える日本人』育成のための行動計画」では、大学入試にリスニングテストを導入するなどの大改革を次々に実施してきた。いずれも不首尾に終わったが、その原因も分析しないまま、また新しい目標掲げている。

齋藤教授が指摘するように、「英語が苦手な理由」を直視せずに、いつも思いつきの近道を選んでるようだ。教育現場では、改革を重ねても結果がでないことに危機感が募る。中高の教育が揺らげば、結局、大学の国際化も危うい。「急がば回れ」。基礎固めの大切さを再確認したい。 つ・む・ぎNEWS 8.24

74 言語を双方向に翻訳する音声翻訳機も登場し、翻訳機の機能は驚くほど進歩しています。確かにこれからの受験では読む・書く・聞く・話すの4技能が必要とされていますが、実際に社会に必要な英語力は読む・書くです。外の世界に興味のない日本の子供たち皆が、「入試のための英語」に疑問を感じます。必要な人だけが、聞く・話すの努力をすればいいのでは！